

この型のしくみは、
 図-34に示すようにつ
 り輪を取り付けてある
 部分に押し棒を差し込
 む口があり、そこから
 押し棒によって押す力
 を加え、その力によっ
 てばねが伸び、それ
 つれて指標が動くよう
 になっています。

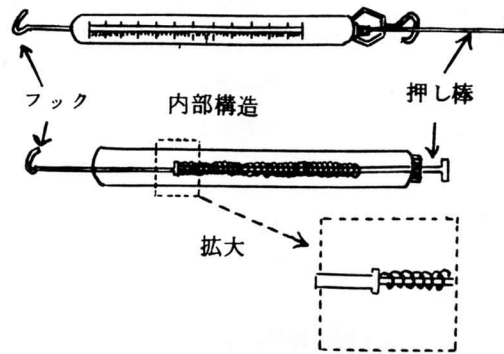


図-34

(2) 秤量

ばねはかりの秤量は、力学実験用として一般に 200 g が多く、最小目盛は 2 g で、中には最小目盛 5 g のものもあります。その他に、秤量 100 g、150 g などがあります。

小学校の力学実験に使用するばねはかりは、秤量 200 g、最小目盛 2 g のものがよいでしょう。

ばねはかりは、荷重が小さいときは不正確な場合があります。たとえば、秤量 200 g のものでは、10 g 付近やそれ以下の測定値は正しくないことがありますので注意を要します。

3 使用上の注意

(1) ばねはかりの精度は、円筒部が外側の筒にふれたり、指標と目盛板の摩擦によって、かなり示度に狂いが出ます。したがって、はかりが滑らかに動くことを確かめてから使用しなければなりません。

(2) 正常に使用する状態にして、何もつるさないとき指標が 0 点を正しく示しているかどうかを確認します。もし、0 点を示していないときには、0 点調整ねじ（機種によっては目盛板で調整するものもあります）により 0 点調整を行います。0 点調整がしにくいかできないものは、0 点の位置を読み取り、それにより測定値の補正を行うことが必要です。

(3) ばねはかりに示された秤量以上のものをさげてはいけません。また、フック